

## 養子あっせん容疑 団体元理事ら逮捕

## 出産・人件費支払わず

児童福祉法が禁じる営利目的の特別養子縁組をあっせんしたとして、四街道市の民間団体「赤ちゃんの未来を救う会」（昨年9月に解散）の元理事ら男2人が8日、県警に逮捕された。捜査関係者によると、元理事らはあっせんの実費名目で育ての親（養親）の希望者から225万円を受け取ったが、出産費用や人件費などは支払われていなかったという。

逮捕されたのは元理事の妻に、神奈川県内の20代女上谷清志（35）、元代表理事の伊勢田裕（32）の両容疑者。2人は営利目的で、養親となることを希望した東京都市内の50代の夫と40代の

女性に約束していたが、出産後に「人身売買になるので払えない」と支払いを拒否。一方、都内の夫婦には「（救う会に）社会福祉士や看護師がいる」と説明していたが、人件費は支払われていなかったという。

夫婦は朝日新聞の取材に、代理人の弁護士を通じて「自分たちのような被害者が出なくなることを願っています」とのコメントを出した。

## 営利、何が悪いのか／赤ちゃんに興味ない

## 元理事・上谷容疑者の一問一答

民間団体「赤ちゃんの未来を救う会」の元理事、上谷清志容疑者は昨年11月、複数回にわたり朝日新聞の取材に応じた。主な一問一答は次の通り。

——受け取った225万円を何に使ったのか。

役員などの人件費、家賃、出産の費用など。でも何が悪いのかと思う。人身売買と言われるかもしれないけど、お互いが納得してやっている。高額マッチングビジネス。お金が回らないと成り立たない。それで営利目的と言われるなら

仕方がない。

——あっせんの優先順位を上げると言って現金を求めた。経費と言えるのか。

罪に当たる可能性のあるぎりぎりのラインみたいな事業。法律にダメと書いてあるからイエローカード。注意されたら終わりだと思っていた。養子縁組は多くのビジネスのうちの一つ。赤ちゃんには、そもそも興味がない。